

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

大町岳陽高等学校

## 2016年、大町岳陽高校夏合宿

今年の大町岳陽高校の夏山合宿は、今年は生徒数が多いこと、顧問の関係との2つの点から縦走形式ではなく、定着合宿とした。インターハイから帰って休む間もなく、17日に準備、18日入山。入山日は、生徒16（男子9、女子7）人、OB1人に引率は小生のみ。涸沢まで入る予定で、朝7時半に学校を出発した。上高地を出たのは、10時。出発時は快晴だったが、徳沢を過ぎるころから急に雲が出始め、横尾の手前で本降りになってしまった。1時半、土砂降りの中、新しくできたトイレの軒下で雨宿り。暫く待っていたが、雨は激しくなる一方だったので、今日の行動は横尾までとした。

翌19日は抜けるような青空が広がっていた。5時半に横尾を出発。本谷橋で一本とり、涸沢を目指す。途中水戸第三高の山岳部が下ってくるのとすれ違う。8時45分、全く雪がない涸沢に到着。お盆を過ぎたせいか、だいぶ空いている。早速幕営。

9時40分、北穂に向けて出発する。残念ながら、ガスが上がってきて、上部は望めない。時間的に遅いせいで渋滞もなく、大パーティもあまり気にならなかったが、南稜の尾根に出る鎖場で下山してきた姫路高校の山岳部のパーティとスライド。刺激をもらう。12時20分、北穂山頂に到着。ほかには誰もおらず、岳陽高校で山頂を独占、山岳部歌を歌う。あいにくガスっていて眺望は利かない。しかし、3000mを極めた生徒たちの顔には疲労の中にも、充実感と満足感があふれていた。15時10分、涸沢に帰着。夕食をとるところには、ガスもあがり、ベールをかぶっていた周囲の山々が姿を現し、生徒たちから歓声があがった。

20日は、奥穂と前穂を目指す。前日同様、5時半にテン場を出発。男子1、女子2の3人の生徒が不調を訴えたので、テントキーパーとし、男子9人（うちOB1）、女子5人とともにテン場をあとにする。出発時は今日も快晴。しかし、ザイテンの手前で、女子が2人不調（一人は足の股関節の痛み、一人は吐き気）を訴える。ザイテンのとりつきで、症状を確認したが、何とか行けそうだったので、ゆっくりペースを抑えながら、進むことにした。7時55分、穂高岳山荘着。下からの風が心地よい。涸沢のテン場がはるか下に小さく望める。幸い、2人の生徒の体調も回復した。少し時間はかかりそうだが、何とか先に進めそう。8時40分奥穂登頂。またしても登頂直前にガスが上がってきて、眺望はなし。しかし、紛うことなき日本3位の高峰である。登頂の証に写真を撮影し、山岳部歌を歌って、登頂の喜びを共にする。今日はしかし、前穂に登るのももう一つの目標だ。ところが、急速に天候が悪化、ガスは湿り気を帯び、ポツポツと雨粒が顔に当たり始めた。前線の通過だろうか、急速に気温が低下。吊尾根を考えると少し怯んだが、これまでの生徒



北穂山頂にて



奥穂山頂にて

たちを見て、その様子から「行くぞ」と発破をかけた。雨は時折、強くなったり止んだりを繰り返す。

10:35 紀美子平に到着。ガイドで山岳会マウントブーリーのM君が、朝岳沢を



出て、前穂に登ってきたと、お客を連れて降りてくるところだった。彼とは全校登山のときに槍沢でも会ったが、長年山をやっていると何かの偶然で登るたびによく会う人もいるものだ。「先生、いつ仕事してるの?」「何、これが仕事さ。」そんな軽口を交わしながら、互いに安全登山を誓う。前穂までの岩場は濡れており、滑り

やすかったので、注意を喚起しながら攀じた。

11:19前穂の山頂に到着。今回の3峰は、いずれもガスの中の山頂であったが、しかし、ラッキーなことに3峰ともにしばらくの間ではあったが、頂上を独占した。もちろん眺望があればそれに越したことはないが、山頂はそれまでの苦労を帳消しにするだけのものがあることは確かだ。暫くの間、一等三角点たる前穂の山頂で至福のときを過ごしていると、ガチャを体中にぶらさげてアンザイレンした2人組が北尾根を登ってきた。ちょうどよいとばかりに互いに写真を撮りあった

今日は長丁場、本当の核心部はこれからの帰途である。生徒に緊張感を途切れさせないように話をして、吊尾根を戻る。13:48奥穂を経由して、穂高岳山荘に着いたのは14:45。昨日午後入山して、今日横尾から登ってきた顧問の小林さんと浅川さんが待っていてくれた。ザイテングラードを慎重に下り、16:35無事テン場着。緊張を強いられながら、11時間行動という長丁場。サブ行動とはいえ、生徒たちはよく頑張った。

3泊4日の合宿も3日目を過ぎれば、生徒のいろいろな部分も見えてくる。中には辛い子もいるだろうに、共同生活の中で、支えあいながらなんとか最終日を迎えた。最終日は久しく辿ることのなかったパノラマ新道を下ることにした。この道を辿るのは何年ぶりだろう。「なんで登らなきゃいけないの?」生徒の不満にも耳を傾けず、1時間40分ノンストップで屏風の頭とのコル手前の小ピークまで登りあげた。だが、神様は最後にご褒美をくれた。この2日間、山頂では景色が望めなかったが、今日は晴れ上がり、パノラマ新道の名そのままに素晴らしい景観が我々を迎えてくれた。「穂高よさらば」の歌そのままに、あとは、ひたすら下り、9:45奥又白谷出合。さすがに最後はみんな無口になったが、10:40新村橋を経由し、11:00には徳沢に到着した。12:50小梨平で入浴をし、4日間の汗を流した。

それにしても、今回改めて2年生が強くなったことを実感した。昨年の夏合宿では、トラブル続きだった彼らが、立派に1年生をリードしている。その姿を見ていると、この1年間で技術・体力・精神力のいずれもが格段に成長したことがわかる。そして、その姿を見た1年生には彼らが本当に大きく輝いて見えたことに違いない。こうして、大町岳陽高校第1回目の夏合宿は、幕を閉じた。

